

## 自己点検表

### 1. 教員個別表

フリガナ ヤギ タカノ 氏 名 八木 孝憲	職 名 准教授 人間学部 子ども教育学科	取 得 学 位 修士(臨床心理学) (大学名)山梨英和大学大学院 (取得年月) 2008 年 3 月
--------------------------	-------------------------	---

### 2. 教育・研究業績表

#### (1) 過去 5 年間の教育業績

教育実践上の主な業績	年月(西暦)	概 要
<b>【講義】</b> グループ学習の推進と自己理解促進	2018 年～	グループエンカウンターや人間関係づくりトレーニングの実施により、コミュニケーション能力の向上を図り、また学生の自己理解を深めるために、集団葛藤場面を想定したコンセンサス実習を行っている。上記のようなグループ学習を通して、受容と共感を基礎とした対人関係の確立及び自己・他者を理解する姿勢を学ぶ。
<b>【ゼミナール】</b> クリティカル・シンキング能力の獲得に向けた学習	2018 年～	問題意識を明確にし、他者に配慮でき良好な対人関係を維持していくことをベースとして、自身の推論過程を意識的に吟味する再帰的な思考を求めている。また、吟味する際には適切な基準や根拠に基づき、論理的で偏りのない思考を行い、問題提起及び課題解決に積極的に関与しうる卒業研究を推進している。
<b>【学外学習】</b> さまざまな地域活動への参画	2018 年～	子どもを対象とした地域のイベント等にボランティアとして企画・参加し、学生の自主性をもとに地域課題への貢献と積極的な取り組みを推進している。
<b>【表彰等】</b> 授業評価監査役表彰	2018 年	授業評価において監査役表彰を受けた(福島学院大学)。

## (2) 過去5年間の研究業績

I 研究活動						
著書・論文等の名称	単著 共著	発行または発表 の年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称	共著者名 (共著の場合)	編者名と当該執筆 者数(編著の場合)	該当頁数
・里親が経験する喪失についての調査	共	2023年10月	公益財団法人前川財団 家庭・地域教育助成報告書	井出智博, 鬼塚淳子, 上野永子, 大平明人		
・子ども里山自然保育活動推進報告書	共	2023年3月	子ども里山・自然保育活動推進検討会	検討会委員		
・幼児期を対象とした「いのちの教育」の実践—指導案と模擬保育を通した生命観の変容—	単	2023年3月	仙台白百合女子大学教職課程研究センター報 第2号(1)			33—40
・希望ある里親養育に向けた「未来語りの対話」ケアモデルの導入	共	2022年7月	公益財団法人前川財団 家庭・地域研究助成 報告書	鬼塚淳子		
・教育相談におけるセルフアセスメントの重要性 —絵本セラピーワークの実践による自己理解・相互理解の体験過程—	単	2022年2月	仙台白百合女子大学教職課程研究センター報 第1号(1)			19—22
・里親が“親”になる過程と里父と里母の役割についての質的研究	共	2021年7月	公益財団法人前川財団 2020年度 家庭・地域教育助成(報告書)	井出 智博		
・子どもの心身を育む自然体験活動	単	2021年3月	福島学院大学 教育・保育論集(第24号)			60—65
・社会的養護におけるグリーンケアの実態と展望—	単	2021年2月	福島学院大学附属心理臨床			31—33

全国児童養護施設への質問紙調査—			相談センター紀要(第14号)			14-21
・保護者支援におけるレジリエンスとユーモアスタイルの効果検証	単	2020年12月	福島学院大学研究紀要第59集			32-41
・児童虐待リスク要因の経済的側面に関する一考察—マクロ計量モデル:尾崎(2019)と厚労省国民生活基盤調査の結果からの分析—	単	2020年3月	福島学院大学研究紀要第58集			70-73
・保育者の「言葉かけ」を再考する	単	2020年3月	福島学院大学 教育・保育論集(第23号)			24-36
・自然体験活動を取り入れた保育の実態と効果—青年期への影響に着目して—	共	2019年11月	自然保育学研究 2(1)	井出 智博		50-52
・私の研究「児童養護施設で暮らす子どもたち」	単	2019年10月	福島の進路(446)			51-63
・異年齢保育の実践がこどもの発達および社会性に与える影響—保育者・保護者・地域住民による自由記述の質的分析—	単	2019年3月	福島学院大学研究紀要第56集			43-48
・家族的無意識と世代間伝達—個人と家族を支える臨床のいち視点—	単	2019年1月	福島学院大学大学院附属心理臨床相談センター紀要(第12号)			29-41
・乳幼児療育の現況と課題に関する調査研究—事業所職員と保護者への質問紙調査から—	単	2018年8月	発達障害支援システム学研究 17(1)			61-63
・陸前高田市適応支援教室「ジャンプスクール」の現状と課題	共	2018年3月	陸前高田グローバルキャンパス大学シンポジウム 2018: 要旨集	菅野みゆき 吉家秀明		

翻訳書・翻訳論文等の名称	単訳 共訳	発行または発表 の年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称	共訳者名 (共訳の場合)	監修者名と当該訳者 数(監修訳書の場合)	該当頁数
学術研究発表						
発表テーマ			発表年月(西暦)	発表場所		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・認知機能から見る中高齢期の wellbeing</li> <li>・里親が経験する喪失の類型化とその影響について—disenfranchised grief に焦点を当てて—</li> <li>・保育者養成校学生の野外活動経験と虫(生物)嫌悪—自尊感情・自然に対する感情反応との関連から—</li> <li>・成人期・高齢期における発達の最適化と Well-being—発達、社会、臨床的知見による理解と支援—</li> <li>・自然保育・里山教育の実践者養成に関する研究</li> <li>・希望ある里親養育に向けた「未来語りの対話」ケアモデルの導入</li> <li>・幼児期における「いのちの教育」の実践に関する—考察</li> <li>・幼児期の発達過程における「嘘」の位置づけ—保育者の認識と関わりの側面から—</li> <li>・子ども里山・自然保育活動推進の取り組み—ふくしま子ども里山教育・自然保育認証制度に向けて—</li> <li>・幼児期の発達段階における他者との関係性や社会性に関する研究—幼児期における「嘘」に関する養成校学生の認識—</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>2024年3月</li> <li>2023年11月</li> <li>2023年11月</li> <li>2023年3月</li> <li>2023年2月</li> <li>2022年12月</li> <li>2022年10月</li> <li>2022年4月</li> <li>2022年2月</li> <li>2022年2月</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本発達心理学会第35回大会 自主シンポジウム</li> <li>日本子ども虐待防止学会第29回学術集会</li> <li>日本自然保育学会第8回大会</li> <li>日本発達心理学会第34回大会 自主シンポジウム</li> <li>2022年度人間発達研究センター研究会</li> <li>日本福祉心理学会第20回大会</li> <li>日本幼児教育学会第30回大会</li> <li>全国保育士養成協議会東北ブロック2022年度第1回総会</li> <li>日本自然保育学会第6回大会</li> <li>仙台白百合女子大学人間発達研究センター第2回研究会</li> </ul>		

・ある養育里親が養育里親になるまでのプロセス—TEMを用いた養育里親になることをめぐる心理的変化についての理解—	2021年12月	日本福祉心理学会第19回大会
・保育者養成校における絵本セラピーワークの実践 —教育相談(保育相談)でのアセスメントとの関連から—	2021年10月	日本幼児教育学会第29回大会
・自然保育の現在と未来—養成校と実践園の取り組みから—	2020年11月	日本自然保育学会第5回大会
・福島子どもたちと自然保育の未来—実践者の声から—	2020年11月	日本自然保育学会第5回大会
・児童養護施設におけるグリーフケアの実態とその必要性	2019年11月	日本福祉心理学会第17回大会
・陸前高田市適応支援教室「ジャンプスクール」の現状と課題	2018年3月	陸前高田グローバルキャンパス大学シンポジウム2018

II 所属学会		
学会名	役職	入会年月(西暦)
日本心理臨床学会	会員	2008年10月
家族問題研究学会	会員	2009年5月
日本福祉心理学会	会員	2016年10月
日本自然保育学会	会員 編集委員	2017年9月
日本幼児教育学会	会員	2017年10月

III 研究費の助成を受けた研究(過去5年間)				
助成機関名	助成を受けた年度(西暦)	助成プログラム	研究テーマ	助成金額(円)
・科学研究費助成事業	2024年	基盤研究B	社会的養護に内在する喪失とそれに伴う悲嘆に対する包括的理解とケアの構築	12,700,000
・全国保育士養成協議会東北ブロック	2023年	個人研究助成	マイノリティ支援としての保育における左きき児の支援法についての検討	100,000
・科学研究費助成事業	2023年	基盤研究C	希望ある里親養育に向けた「未来語りの対話」ケアプログラムの開発	4,290,000

・人間学研究センター	2023年	共同研究助成	大学教育におけるクリティカルシンキング能力の育成に関する調査研究	296,000
・人間発達研究センター	2022年	個人研究助成	自然保育を担う保育者養成校学生への教育プログラムの開発と実践	92,500
・人間発達研究センター	2021年	個人研究助成	幼児期の発達段階における他者との関係性や社会性に関する研究	79,000
・全国保育士養成協議会東北ブロック	2021年	個人研究助成	幼児期の発達過程における『嘘』の位置づけー保育者の認識と関わりの側面からー	100,000
・財団法人前川財団	2020年	家庭・地域教育助成	里親が‘親’になる過程と里父と里母の役割についての質的研究	900,000
・全国保育士養成協議会東北ブロック	2019年	個人研究助成	相談援助における保護者支援とバーンアウト予防-レジリエンスとユーモアスタイルの観点から-	100,000
・科学研究費助成事業	2018年	研究活動スタート支援	児童養護施設で暮らす子どもへのグリーンケアの開発	2,080,000
・財団法人前川財団	2016年	家庭・地域教育助成	地域包括的な異年齢保育の実践による家族機能の代替可能性に関する研究	870,000
・公益財団法人マリア財団	2016年	研究助成	乳幼児療育支援における自治体と民間事業所との連携と協働	300,000

### 3. 特記事項

#### 【非常勤講師】

- ・福島大学人間発達学類「社会的養護」(2022年4月ー現在)
- ・東北生活文化大学短期大学部「子ども家庭支援論」(2022年10月ー2024年3月)
- ・桜の聖母短期大学「保育の心理学」(2022年10月ー2024年3月)

#### 【学外委員】

- ・全国保育士養成協議会東北ブロック 研究委員(2024年4月ー現在)
- ・宮城県いじめ防止対策調査委員会 委員(2024年4月ー現在)
- ・日本自然保育学会第9回大会実行委員(2024年3月ー現在)
- ・日本自然保育学会 編集委員(2023年4月ー現在)
- ・福島虐待問題研究会 委員(2022年10月ー現在)

- ・(公社)福島県森林・林業・緑化協会 子ども里山教育活動推進検討会 委員(2020年4月 - 2024年3月)
- ・東海心理療法研究会 幹事(2016年4月 - 2024年3月)
- ・アカデミアコンソーシアムふくしま キャリアサポーター制度 WG 委員(2020年4月 - 2021年3月)
- ・福島市 保育士の働きやすい職場づくり事業 委員(2020年4月 - 2021年3月)
- ・日本自然保育学会第5回大会 実行委員(2020年2月 - 2021年2月)
- ・静岡県臨床心理士会 協力委員(2010年4月 - 2016年3月)
- ・静岡県教員採用試験 面接委員(2013年4月 - 2015年3月)

#### 【社会貢献活動】

- ・保育士等キャリアアップ研修講師(2024年4月 - 現在)
- ・IFCA(インターナショナル・フォスターケア・アライアンス) サポートティブアダルト 運営参加・支援(2020年4月 - 現在)
- ・福島県教育委員会緊急時派遣カウンセラー 運営参加・支援(2020年4月 - 2021年3月)
- ・子ども虐待防止オレンジリボン運動実施校 企画・運営参加・支援(2020年4月 - 2021年3月)
- ・福島県「子どもと青年の異世代交流事業」 助言・指導(2020年4月 - 2021年3月)

#### 【学内委員】

- ・入試広報委員会委員・大学広報室長・自己点検・評価委員会委員・人間発達研究センター(研究員)研究活動推進委員・将来構想委員

#### 【資格】

- ・臨床心理士・専門社会調査士・公認心理師・LNTトレーナー